

2016 年 3 月期第 3 四半期 決算電話会議 質疑応答要旨

日時：2016 年 2 月 1 日（月） 11：00～11：40

お断り：この要旨は、決算電話会議にご出席になれなかった方々の便宜のためにご参考として掲載するものであり、電話会議でお話ししたことの一字一句を書き起こしたものではありません。当社の判断で簡潔にまとめさせていただきました。ご了承ください。

- Q. 水処理薬品が中国や東南アジアで増収になった要因と、それが利益に貢献しているかどうか確認したい。
- A. 中国や東南アジアでの当社のシェアはまだそれほど高くなく、シェア拡大という意味で市場開拓の余地があり、順調に推移した。また KEAG を除くベースで増益となっていることから見て、中国や東南アジアでの増収が利益に貢献していると考えている。
- Q. 水処理薬品の国内とアジアで限界利益はそう変わらないと考えていいか。
- A. 薬品事業については、国内とアジアで収益性はほとんど変わらないと言っていい。業種に偏りもない。
- Q. 液晶向け水処理装置の海外での受注は今はピークか、それとも来期前半にかけてさらに伸びるか教えてほしい。
- A. 中国や台湾での液晶向け水処理装置の受注は、2016 年 3 月期の第 4 四半期から 2017 年 3 月期の第 1 四半期あたりがピークになるかもしれない。ただし売り上げ計上は多くが 2017 年 3 月期か 2018 年 3 月期になる。
- Q. 足元で顧客の都合で水処理装置の納期を急がせたり、受注がキャンセルになったりということはないか。
- A. 聞いていない。
- Q. 液晶が有機 EL に置き換わった場合の影響をどう考えるか。
- A. 液晶と有機 EL とで水処理に大きな違いはなく、超純水製造装置への影響はほとんどないと考えている。
- Q. 鉱工業生産指数がここ 2 ヶ月弱含んでいるが、今期の水処理薬品の国内売上高の通期計画は達成可能か。
- A. 水処理薬品の 1～3 月の国内売上高の推移がポイントになるが、現時点で大きく下ぶれするとは見ていない。
- Q. 第 3 四半期までの KEAG を除いた水処理薬品の中国売上高の現地通貨ベースでの伸び率を教えてほしい。また第 4 四半期にトレンドの変化はあるか。
- A. 第 3 四半期までの累計で前年同期比 20%強伸びている。第 4 四半期は多少伸び率が鈍化しているが、大きく落ち込んでいるということはない。

- Q. 一般産業向け装置の収益性は、第 4 四半期に売り上げ計上が進んできてもまだ採算が低くなる状況にあるのか。
- A. 2016 年 3 月期通期においても一般産業向けハードは減収による赤字を見込む。これはボリュームの問題であり、個々の採算は変わっていない。
- Q. 2015 年 12 月に満期を迎えた超純水供給事業の契約について、その後どういう形で運営されているか教えてほしい。
- A. 契約を延長し、売上高は減少したが利益率は変わらない水準を維持している。
- Q. 他の超純水供給事業の契約について、今後価格見直しのリスクはあるか。
- A. 今のところ価格見直しの話は一切出てきていないので、そのようなリスクはないと考えている。現状で単価や契約期間の変更はない。
- Q. 超純水供給事業の 2016 年 3 月期通期および 2017 年 3 月期の設備投資の見通しについて教えてほしい。
- A. 2016 年 3 月期については超純水供給事業の設備投資計画 165 億円に向けて進捗している。2017 年 3 月期については、まだ見えていないところもあるが 2016 年 3 月期よりは減少すると見ている。
- Q. シャープ向け売上高の前年同期比はどれくらいだったのか。
- A. 第 3 四半期累計で前年同期に比べ 12%程度減少している。
- Q. 超純水供給事業の今期通期の売上高が会社計画を上回る可能性はあるか。
- A. 例年の傾向から見ると多少の上ぶれはあるかもしれない。
- Q. 超純水供給事業の来期の売上高は設備投資が順調なので増加すると見ているが、どれくらいの水準になるか。
- A. 10 億円前後の増加になるかと思う。
- Q. 水処理装置のハードの採算性の推移について教えてほしい。
- A. 不採算案件の赤字は、2015 年 3 月期に 20 億円程度あったが、2016 年 3 月期は 5 億円程度まで減少すると見ている。2017 年 3 月期はもし不採算案件がなくなればその分は前年同期に比べ増益要因になる。
- Q. 電子産業向け水処理装置ハードの、半導体・液晶・電子部品ほか向けの比率を教えてほしい。
- A. 第 3 四半期までの累計で、受注高については 18 : 55 : 27、売上高については 21 : 52 : 27。
- Q. 一般産業向け水処理装置の来期は利益が増える方向性と考えていいのか。
- A. 2017 年 3 月期は増益に向けて計画の策定を進めている。2016 年 3 月期は利益面でメンテナンスがハードの落ち込みをカバーしている。

- Q. 2016 年 3 月期第 4 四半期の営業利益は差し引きでは前年同期比マイナスの計画だが、どのような見方をしているか。
- A. 水処理装置は仕掛けとの関係で原価がどうなるか、水処理薬品は国内売上がどうなるかなど変動要素が残っており、今のところ期初計画を据え置いている。

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。